駿河台大学 NEWS

SURUGADAI UNIVERSITY

2008年3月25日(火)
第123号

[発行]
駿河台大学
企画広報委員会
〒357-8555
埼玉県飯能市阿須698
☎(042)972－1181

駿河台大学ホームページ　http://www.surugadai.ac.jp/

今こそ君たちの出番!!

3月25日（火）午後2時より本学体育館にて、平成19年度卒業式が執り行われる。本年度卒業生は、法科大学院法務研究科61名、経済学研究科11名、現代情報文化研究科16名、法学部308名、経済学部260名、文化情報学部275名、現代文化学部149名の計1,080名。卒業生は、数々の思い出が溢れるキャンパスを後に、飛躍の時を迎える。

答辞を述べるのは、経営情報学科の小暮貴美子（こぐれきみこ）さん（埼玉県立本庄高校出身）。来賓には、財団法人渋沢栄一記念財団「渋沢史料館」館長の井上潤（いのうえじゅん）氏をお迎えし、卒業生へのはなむけの言葉を頂く。

式終了後は、各教室において卒業生全員に卒業証書が手渡され、その後飯能プリンスホテルにてコメンスメントパーティーが催される。恩師や友と存分に語り合い、社会へのスタートラインを踏み出すための英気を充分に養って欲しい。

卒業にあたって

副学長　南林さえ子

卒業おめでとうございます。卒業にあたって皆さんにまず申し上げたいことは、これまで支えてくれた家族や周りの人への感謝を忘れないでほしいということです。感謝の気持ちを持つことは周りの人からも愛されることになります。それが次への力になるのです。

私達は今どのような環境の中にいるのでしょうか。国内政治では年金問題、経済では株価の下落、社会的には家族の中での残虐な事件、若者が生きにくい社会、格差社会の拡大、地球規模の環境問題など、多くの問題の坩堝の中に暮らしているのです。

大学時代は人間の一生を通じて自分を大きく変化させることができる最も大切な時期であったと思います。卒業に当たって駿河台大学に入学して以来、自分がどのように変化し、自分の可能性がどのように高められたか自己評価し、そこをスタートラインとして新たな出発をしてほしいと思います。

同時にこれからは社会人として、自己責任という意識をしっかりと持ってほしいと思います。多くの企業が必要としているのは、受身の姿勢で仕事をする人間ではなく自分の意見を持つ個人です。常に自分の能力を高める努力をしてください。

最後に、社会に対する貢献についてです。私達が生きていく上で必要となる身の回りの基本的な事柄や環境問題に対して、積極的に取組むことが、回り回って自分の住む社会を良くして行くことにつながるとの自覚を持ってほしいと思います。こうした個人の社会的貢献は、いつ発生するかも知れない危機に対処する上でも非常に重要だと思います。

皆さんが自己責任と社会的貢献を考えて生活されることを願っています。

温かく迎えよう

副学長　原　聰

卒業おめでとう。小学校から大学までの本当に長かった学校時代、子ども時代からの卒業ですね。これまでの学校生活では、善かれ悪しかれ親や教師といった大人の庇護（干渉?）の下での生活。しかし、この傘は今日でなくなります。太陽をいっぱい浴びることもできますし、大雨を身体じゅうまともに浴びてずぶ濡れになることにもなります。気持ちの整理はつかないかもしれませんが、この社会は皆さんにもう子供でいるのは十分だとの刻印を打つのです。未知の世界に足を踏み入れることは、誰にとっても不安です。特に大人の世界、仕事の世界に入ろうとする今は、期待や希望以上に恐れが勝ることでしょう。しかし、学校を中途退学する人は多いが、社会からドロップアウトする人の数はそれほどではありません。ほとんどの人が、社会の中で生きる場を得て暮らしているのです。なぜなのでしょう。

一つにはこんなことがあるように思います。学校は、結局のところ勉強という評価軸が巾を利かせているところ。この評価軸は狭く、適応できない人も多い。ところが、社会の、大人の評価軸は何本もある。社会はそれこそ多様な人が、誰でもが受け入れられる大きな器なのです。学校以上にやさしいのが（甘いとは違うが）社会。生き抜くことはいずれにしろ厳しいが、個性に合ったリアルな生きる場は用意されているのです。ですから安心して踏み出しなさい。私たち大人は、君たちを温かく迎えいれよう。

千変万化

わが国では、ポスト・バブル期を経て、今日徐々に社会構造が変化しつつあるように見受けられる。従来の事前調整型の業界保護の行政は終焉を迎えつつあり、今後は明確なルールが設定されたうえで、企業や個人が、個々の判断と責任に基づいて行動することが期待される▼しかしながら、明確なルールの設定が不十分のまま、規制緩和が行われ、現在、様々の混乱を生んでいるように思われる。例えば、今日の食品偽装の問題は、各官庁が業界保護も消費者保護も併せて行う所に根本的な問題がある▼消費者保護も同様である。近年、住宅リフォーム事件、キャッチセールス、マルチ商法、多重債務等、法律や情報に疎い高齢者や若者等、弱い者いじめのだましや脅しが頻発しているが、日本の消費者保護は、先進国の消費者行政と比較して、はるかに見劣りがする▼また、失業や格差の是正、年金制度等、セーフティネットの構築が不十分なままで、規制緩和や国際化が進み、大きな社会問題を生んでいる▼市場経済は、これらのルールや安全装置が前提であり、現在、その構築が急務であると思われる。

（法学部教授・大録英一）

平成19年度答辞・総代・各賞受賞者一覧

◆答辞

経営情報学科
小暮　貴美子
（埼玉県立本庄高校出身）

◆総代

経済学研究科
萩原　道雄

現代情報文化研究科
文化情報学専攻
森重　辰海

現代情報文化研究科
法情報文化専攻
ZHANG（チョウ）　YANYAN（エンエン）

法務研究科
後藤　隆大

法律学科
大舘　友美子
（埼玉県立所沢中央高校出身）

経済学科
武智　七瀬
（都立府中東高校）

経営情報学科
山口　太郎
（都立赤羽商業高校出身）

文化情報学科
XU（ジョ）　YING（エイ）　PING（ピン）
（留学生・中国）

知識情報学科
柳沢　友穂
（私立仁愛女子高校出身）

◆優秀賞

比較文化学科
郡　由佳
（都立保谷高校出身）

心理学科
兼島　綾野
（沖縄県立コザ高校出身）

法律学科
飯島　隆
（都立稲城高校出身）

経済学科
布施　剛志
（新潟県立加茂高校出身）

経営情報学科
ZHANG（チョウ）　YING（エイ）　LAN（ラン）
（留学生・中国）

文化情報学科
佐藤　愛
（宮城県鼎が浦高校出身）

知識情報学科
原島　いず美
（埼玉県立秩父高校出身）

比較文化学科
前田　朕里
（埼玉県立飯能南高校出身）

心理学科
藤森　悠一
（都立武蔵丘高校出身）

◆菩提樹賞

法律学科
浅田　裕美
（私立高崎健康福祉大学高崎高校出身）

浅野　千夏
（都立大泉学園高校出身）

石田　統太郎
（埼玉県立飯能南高校出身）

上野　知宏
（都立荻窪高校出身）

小野　和美
（さいたま市立大宮北高校出身）

神戸　義太郎
（私立東京農業大学第二高校出身）

國井　智行
（栃木県立烏山高校出身）

清水　のどか
（長野県小諸高校出身）

町野　勇太
（埼玉県立児玉高校出身）

矢口　誠
（栃木県立茂木高校出身）

経済学科
坂井　祐介
（都立小平西高校出身）

三浦　貴子
（新潟県立長岡向陵高校出身）

皆川　彩
（私立常磐大学高校出身）

KANANURAK（カナヌラク）　PARINYA（パリンヤ）
（留学生・タイ）

経営情報学科
荒井　修平
（都立福生高校出身）

菊地　彩
（山形県立鶴岡北高校出身）

多田　勉
（埼玉県立鷲宮高校出身）

LAN（ラン）　LEI（ライ）
（留学生・中国）

文化情報学科
内田　友之
（埼玉県立鳩山高校出身）

堤　英梨
（都立南平高校出身）

枇杷木　陽一
（埼玉県立坂戸西高校出身）

知識情報学科
佐々木　彩
（埼玉県立杉戸高校出身）

関根　雅俊
（埼玉県立春日部東高校出身）

堀井　悠加
（栃木県立烏山女子高校出身）

比較文化学科
塩田　久美子
（私立石川高校出身）

高橋　真理子
（都立田柄高校出身）

高森　松子
（兵庫県立姫路東高校出身）

心理学科
薄井　浩志
（都立五日市高校出身）

岸田　美知子
（私立日本大学第二高校出身）

宮田　知英
（群馬県立前橋高校出身）

◆特別賞

課外活動において優秀な成果を収めた学生へ贈られる。

法律学科
金子　直人
（私立千葉国際高校出身）
・行政書士試験合格

三瓶　智詞
（千葉県立松戸馬橋高校出身）
・行政書士試験合格

永山　翼
（埼玉県立川越初雁高校出身）
・行政書士試験合格

西木　香
（埼玉県立飯能高校出身）
・ユニバーサルホッケー部総合副主将、07日本フローアボール選手権優勝、05女子フロアボール世界選手権A Div.8位

湯田　克也
（福島県立二本木工業高校出身）
・カヌー部、学生選手権チーム優勝

吉田　彩香
（埼玉県立飯能高校出身）
・女子ホッケー部主将、関東学生12期連続準優勝、東日本インカレ5年連続優勝、07関東学生春秋ベストイレブン、07東日本インカレMVP

皆川　彩
（私立常磐大学高校出身）
・福祉施設、身体障害女性支援、障害者パソコン教室等ボランティア活動

経営情報学科
岡部　浩一
（埼玉県立狭山経済高校出身）
・07オーバーナイトウォーク実施運営スタッフ、06駿輝祭実行委員会広報部長など

川尻　尚吾
（私立実践学園高校出身）
・行政書士試験合格

文化情報学科
最上　恵嘉
（私立修徳高校出身）
・剣道部女子主将、07関東女子学生剣道優勝大会（団体）ベスト16、07全日本女子学生剣道優勝大会（団体）2回戦進出

知識情報学科
雨木　浩子
（新潟県立分水高校出身）
・女子ホッケー部、関東学生12期連続準優勝、東日本インカレ5年連続優勝、07関東学生春秋ベストイレブン、06関東学生秋得点王・ベストイレブン

名古屋　実伶
（都立片倉高校出身）
・ユニバーサルホッケー部、07日本フロアボールリーグ優勝、07日本フロアボール選手権優勝、07女子世界選手権B Div.6位

比較文化学科
鈴木　達仁
（栃木県立黒磯南高校出身）
・ドイツ語スピーチコンテスト参加（07創価大優勝、07京都外大5位）、07駿河台大学ドイツ語暗唱大会実行委員長

ZHOU（シュウ）　JING（セイ）
（留学生・中国）
・06留学生交流会会長

心理学科
大嶋　亜矢子
（栃木県立鹿沼東高校出身）
・女子ホッケー部、関東学生12期連続準優勝、東日本インカレ5年連続優勝

◆入間プロジェクト貢献賞

学生参加による〈入間〉活性化プロジェクトにおいて目覚しい活躍をした学生へ贈られる。

法律学科
大江山　元識
（私立保善高校出身）

國井　智行
（栃木県立烏山高校出身）

忠　あゆみ
（新潟県立中条高校出身）

濱田　藍
（埼玉県立大宮中央高校出身）

経営情報学科
北田　知穂
（埼玉県立所沢中央高校出身）

松澤　真希
（埼玉県立入間高校出身）

心理学科
兼島　綾野
（沖縄県立コザ高校出身）

仲真　ゆかり
（沖縄県立コザ高校出身）

2007年度 卒業生からのメッセージ

今年度も、一人ひとり個性あふれる学生が、それぞれ違った学生生活を体験して卒業を迎えました。今春の卒業生の中から4名に、大学生活を振り返り、後輩へのメッセージを寄せてもらいました。

法律学科4年 大舘友美子

私にとっての大学4年間は本当にあっという間に過ぎてしまったという気がします。

私の過ごした大学生活は、資格取得のために大学の講座（キャリアカレッジ）を受講して勉強したり、オリエンテーションキャンプのアドバイザーをしたり、インターンシップに参加したり、様々な経験をさせていただいた4年間だったと思います。

その経験の中で共通して感じたことは、人との出会いの大切さでした。

資格取得を目指して講座を受講した時は、同じ心構えで勉強している友達と出会えたことで、お互いに勉強で息詰まっている時等、相談し合うことができ、また頑張って勉強しようって気持ちになりました。

オリエンテーションキャンプのアドバイザーをした時は、アドバイザーをやらなければ出会えなかった先輩や後輩、同年代の仲間と出会うことができ、今でもこの時に出会った友達と会ったり遊んだりしている仲間もいるくらいです。

私は4年間で、このような経験をしなければ、出会えなかったであろう友達や仲間とも出会うことが出来ました。

大学には多くの学生がいるため様々なタイプの人と出会うことができます。

この大学生活でしか出会うことのできない人とのつながりを大切にし、積極的に様々なことにチャレンジして過ごしていってほしいと思います。

（おおだてゆみこ・埼玉県立所沢中央高校出身）

右が大舘さん

大舘さんは、2007年度卒業生の法学部総代に選出されるなど、4年間優秀な成績を修めました。

知識情報学科4年 雨木浩子

私は大学4年間ホッケーを続けてきました。4年間頑張れたのも、両親、監督、部活の仲間、学校関係者の方など、たくさんの人達の応援のおかげだと思っています。ありがとうございました。

去年の試合の結果は、決して納得行くような結果ではありませんでした。春リーグの山梨学院との決勝戦では、0対7という大差で負けてしまいました。負けた理由は色々ありましたが、体力面、勝ちたい!!という気持ちの面が足りなかったという事を思い知らされました。そこでチームは一丸となり、辛いトレーニングもみんなで励ましあってチーム力を上げる事が出来たのだと思っています。11月18日の山梨学院との決勝戦では0対2と負けてしまいましたが、チーム一丸となり戦うことが出来ました。

関東リーグ優勝という目標は果たせませんでしたが、それと引き換えに得たものがとても大きかったです。残った後輩達には私達が果たせなかった目標を達成してもらい、よりよい成績を残せるように頑張ってもらいたいです。

（あまきひろこ・新潟県立分水高校出身）

去年卒業した先輩と一緒に。左が雨木さん

雨木さんは、女子ホッケー部の中心選手として各大会での躍進に貢献しました。

経営情報学科4年 岡部浩一

私はこの駿河台大学での4年間のうちに、駿輝祭、入間活性化プロジェクト、オープンキャンパス、芸術祭、オーバーナイトウォーク復活等、様々なことに取り組みました。それぞれの活動で、2度とないその場面でより良いものを作るにはどうすればよいか、また困難をどう打開するかを考え、行動してきました。そういった過程を経てきたからこそ、大きな喜びや新しい発見がありました。また、それらの経験が自分を成長させてくれたと思います。もちろん、仲間の輪も広がり、素晴らしい先輩や同輩、後輩にも出会うことができました。私の大学生活はこういった、まさに「一期一会」のサイクルによって形成されていきました。ここで学び培った、心構えや知識、経験をこれからの糧とし、精進していきたいです。

振り返るとあっという間でしたが、本当に充実した大学生活であったと自信を持って言えます。「今しか、ここでしか出来ないこと」があるはずです。在学生の皆さん、残りの学生生活をどうか有意義に過ごしてください。

最後に、これほど多くの経験をすることができたのも、先輩、同輩、後輩、教職員を始めとして、多くの方の支えがあったからです。皆様に心から感謝を致します。

（おかべこういち・埼玉県立狭山経済高校出身）

おとうろう祭りにて。前列右から5人目が岡部君

岡部君は、駿輝祭やオーバーナイトウォークなど、学内イベントのほとんどで実行委員会に所属し、中心メンバーとしてイベントを支えました。

比較文化学科4年 森長千晶

私は、ぜひ留学をしたいと思って、編入学生として入学しました。そして、2006年度には、1年間派遣留学生として、念願の英国に留学することができました。そこから得た物は語学力だけではなく、他国の文化や考え方の違いを、日本と比較し、受け入れられるようになったことだと思います。そして、留学の他にもオリキャンのアドバイザーや入間活性化プロジェクトと自ら積極的に参加しました。

この3年間で一番感じたこと、それは、「人との出会いを大切にする事」です。留学中も含めこの3年間で沢山の人との出会いがありました。学生の時の友人は一生の宝だと思います。それは、学生時代の友人というのは自分が何者でもない時に出会うもので、社会に出てしまうと、肩書きや上下関係もあり、なかなかそういった純粋な関係はできにくいからです。カラオケでオールしたり、朝までファミレスで語り明かしたり、スノボに旅行したり。そういった「なにげない時間」は後から思い出すと「キラキラした時間」になって思い返すことが出来ます。3年間本当にお世話になりました。ここで過ごした時間を胸に社会でも頑張りたいと思います。

（もりながちあき・都立小平高校出身）

留学先にて。中央が森長さん

森長さんは、2006年度エセックス大学派遣留学生としてイギリスへ留学し、かけがえのない経験を積みました。

駿河台大学に寄せて
退任教員からのメッセージ

日本経済の変動と変容

経済学部教授　古川 哲夫

本学経済学部がスタートした1990年は、日本経済が最も輝いていた1980年代後半の大型景気の頂点の時期であった。1980年代後半の日本経済は、力強い経済成長と強い円を背景に世界経済の中で最も強力な経済大国として注目を浴び、「日本に学べ」という意味の「ルック・イースト」というフレーズが喧伝されていた時代である。それから18年、日本経済は激動の時代を経て、大きく変容した。

激動の始まりはバブルの崩壊である。1990年始めから株価が暴落し、ほぼ一年遅れて地価の暴落が始まった。株価・地価の下落はその後長期に亘って続き、現在でもピークの水準を大きく下回っている。

バブル崩壊の影響は甚大で、日本経済は長期停滞に陥った。特に深刻だったのはバブル崩壊に伴い金融機関が巨額の不良債権を抱え込み、金融システムが正常に機能しなくなったことである。このため2000年代に入っても、日本経済は停滞を抜け出せなかった。

この間、一方で中国など新興国の台頭が著しく、また、アメリカやEU経済も堅調に推移したため、日本はすっかり影が薄くなってしまった。

しかし、近年、日本経済はようやく不良債権問題を解決し、ここ数年、景気も上昇を続けてきた。日本経済は、今、バブルの負の遺産を乗り越え、新たな時代に向けてスタートを切ろうとしているように見える。

駿河台大学経済学部発足以来18年間、日本経済の変動と変容を見つめてきた者として、これからの日本経済がどのように変わっていくのか、強い関心を抱かざるを得ない。恐らく今は予想できない様々なサプライズが起こるであろう。

本学で学んだ諸君をはじめ多くの若者が日本経済を支え、1980年代の輝きに勝るとも劣らない未来を切り開いてゆくことを期待して止まない。

お別れの言葉

現代文化学部教授　Roger Finch

私が初めて来日したのは30年以上前のことですが、そのとき早稲田大学で英語を教え始めました。その後、上智大学の英語学科で英語とアメリカの現代詩を、大学院で音韻論と史的言語学・比較言語学を教えました。両校ともももちろん有名な大学であり、多くの学生は英語の読み書きがよくでき、中には話すことも上手な学生も（ほとんどが帰国子女でしたが）いました。

1990年に、ここ駿河台大学で教授の職についてはどうかとの申し出を受けました。初めてキャンパスを訪れたときは、モダンな建物、すばらしい施設、校舎と校舎の間に広がるたくさんの樹木があり、芸術的植栽がほどこされた広々とした空間などがとても印象的でした。特に、山々に囲まれた美しい環境の中にあることに感銘を受け、この職につくことに決めました。

本校の学生たちには最初から好感を持ちました。常に礼儀正しく、注意深く、行儀のよい学生たちでしたから。すべての教室は設備がとてもよく整っていたので、ビデオテープ、レーザーディスク、CD、DVDなどの視聴覚教材を存分に利用することができ、教室でのプレゼンテーションをより効果的にし、学生たちの興味を刺激し、授業を効果的で、学生たちのみならず私自身にとっても楽しいものにするのに大いに役立ちました。大学の管理スタッフはいつも協力的でしたし、私は寛大な財政的支援を受けていたおかげで、少なくとも年に一回は海外の会議に出席することができました。そのような機会にヨーロッパやアジアの様々な興味深い国々を訪ねることができたことは、比較文化論のコースのための情報源としても大いに有益でした。

今年3月末に大学を退職し、アメリカのメイン州に帰ります。ボストンからわずか1時間ほど北に行ったところです。「引退」といっても活動の終わりを意味するわけではありません。言語学の研究を継続し、ここ数年間取り組んできた本を完成するために時間を費やすつもりです。とはいえ、ここ駿河台や日本のあちこちで知り合った友人たちに会えなくなるのは寂しいことですし、特に教え子たちと会えなくて寂しくなるでしょう。皆さんが私のことを覚えていてくださり、これからも連絡を保ってくださると嬉しいです。そして、もし機会がありましたら、どうぞメインに私を訪ねてきてください。

事務局からのお知らせ

教務課より

卒業（修了）後の証明書申込について

詳しくは本学同窓会ホームページで紹介しています。
http://www.surugadai.ac.jp/dousou/

【証明書の種類と手数料】

卒業（修了）証明書	200円
学業成績証明書	200円
（英文証明書も同額）	

※その他の証明書を希望する場合は、その旨詳細を連絡してください。発行には時間を要します。

【申請者の確認】

申請には、個人情報保護の観点から、身分証明書や委任状等が必要となります。これらの書類は、証明書の発行目的以外には使用しません。

「身分証明書」運転免許証・パスポート・健康保険証等の公的証明書

「委任状」本人の意思が確認できるように作成してください。本人の捺印がないものは無効です。委任状の見本は同窓会ホームページで確認できます。

①本人が受領する場合（原則）

身分証明書を提示してください。（郵送での申し込みの場合はコピーを同封）

②代理人が申請・受領する場合

本人の身分証明書のコピー、委任状、代理人の身分証明書を提示してください。

【申し込み方法】

Ⅰ窓口申し込み

証明書自動発行機で手数料分の申請書を購入後、必要事項を記入し、身分証明書を提示の上、教務課窓口に提出してください。その場で発行します。

※窓口及び証明書自動発行機受付時間

平日　9時～17時

土曜　9時～13時

（休業期間中は受付時間が異なる場合があります）

Ⅱ郵送申し込み

a. 必要事項①～⑨（後記参照）を明記した申込書

b. 手数料と返信用郵送料をあわせた額の切手

c. 申請者を確認できる書類（前記参照）

※同窓会ホームページで、申込書のダウンロードや郵送料の確認ができます。

a・b・cの3点を同封の上、以下の宛先へ申し込んでください。返信用封筒は必要ありません。

速達を希望する場合は、速達料分の切手を追加し、その旨明記してください。

原則、郵送での申し込み後、証明書が届くまで1週間程度かかります。

【申込書必要事項】

①請求日②卒業学部・学科又は研究科③卒業（修了）年月④在学時の学籍番号⑤氏名（ふりがな）⑥生年月日⑦返送先住所・電話番号⑧証明の種類・通数⑨厳封の有無と、厳封を希望する場合には具体的な封入方法

【宛先】

〒357-8555
埼玉県飯能市阿須698
駿河台大学教務課
○○学部（研究科）担当

※封筒に「証明書申込書在中」と朱書きしてください。

メディアセンターより

卒業生の利用について

卒業後も、次の要領でメディアセンターを利用することができます。

【利用方法】

4月以降、身分証明書（免許証等）を用意の上、メディアセンター1階総合受付で所定の申請書類に必要事項を記入してください。卒業生用の入館証を即日交付します。

【利用内容と期間】

メディアセンターの一部サービス（図書の貸出とパソコン利用）を除き利用できます。有効期間は、入館証の発行日からその年度末です。

■パソコンエリアから

今年度卒業生のID・パスワードの有効期限は3月末日迄です。ファイル・サーバやメール・サーバに必要なファイル等を保存している学生は各自で早急に対応してください。

内田先生 長い間ありがとうございました
―内田康夫名誉教授最終講義―

経済学部准教授　久持英司

1月11日（金）の4時限、7201教室にて内田康夫名誉教授の最終講義が「現代文明の罪業―21世紀への提言とこれからのあるべき姿―」と題して行われました。この講義は先生ご担当の「環境生物学」の年度内最終回の授業にあたり、また先生は野外自然観察会などの公開講座も担当されてきたこともあり、会場には学生、卒業生、教職員のみならず、一般の方々も多数詰めかけました。

講義で内田先生は、人間が世界の各地に及ぼした環境問題による被害についてスライドを使って大変わかりやすくお話しされ、また被害の原因となった人間の活動ばかりでなく、それを解決する力を持ちながら放置してしまう人々の無能さに関しても熱心に説かれました。

また、最後には「世界人口を静止人口とすること」「エネルギーは太陽主体とすること」など9つの提言を示されました。

教室は空席もないほどの盛況ぶりでしたが、集まった150名近い方々は熱心に先生のお話に聴き入っていました。

この講義の模様はビデオとしてメディアセンターに保存してありますので、お見逃しの方はご覧になってみて下さい。

内田先生は経済学部の発足以来18年間、本学の教壇に立たれました（先生は教室内ばかりでなく屋外でも頻繁に授業をされましたので、この表現は正確ではありませんが）。昨年度退職され、今年度は非常勤講師として講義・演習・公開講座などを引き続きご担当下さいましたが、本学の教室での先生の講義は今年度で最後となります。内田先生、長い間、大変お世話になりました。

（ひさもちえいじ・会計学）

卒業生からのメッセージ
2007年度 就職活動報告

就職活動は計画的に

法律学科4年　神戸義太郎
《内定企業》
株式会社群馬銀行

3年生の秋、都内某所で開催された「合同説明会」に参加した事が、私の就職活動の始まりでした。私は元々金融業界に興味があったため、銀行や信用金庫等を中心に、幅広い分野の企業ブースを訪れました。初めのうちは、広い視野で様々な業界を知る事も大切です。

そして、合同説明会に参加した事を機に、インターネットにより各企業にエントリーを開始しました。同時に、書店で就職活動関係の本を買い求め、準備を進めました。そして、実際に各企業独自の説明会に参加し始めたのが、2月末の事でした。最終的には希望する複数の企業から内定を頂き、4月末に就職活動を終えることができました。

活動期間約2ヶ月と、比較的スムーズに就職活動を終えることができましたが、何点か意識したポイントがあります。

まず、当たり前の事なのですが、スケジュール管理を計画的に行う事です。急な選考通過の連絡により、スケジュールを変更せざるを得ない事も多々ありました。1日に2社選考がある場合等もあり、スケジュール調整は大変なものになってきます。そこで、様々な事象に「臨機応変に対応」できるよう、常に意識しておく事が大切です。

次に、業界研究に関してです。自分が行きたい業界が定まったら、その業界の基本事項について調べましょう。しかし、業界に詳しくなっただけでは、面接やエントリーシートにおいてアピールする事はできません。各業界にはそれぞれ、多くの同業他社が存在しています。そこで「何故他社ではなく、その会社を志望しているのか」という事を、はっきりとアピールできるようにしておく事がポイントになります。

これから就職活動を始める皆さんは、様々な不安を抱えていると思います。しかしあまり気負う事なく、楽しむぐらいの心持ちで取り組んでみて下さい。成功を心からお祈りしております。

（かんべよしたろう・私立東京農業大学第二高校出身）

おめでとうございます 資格取得者紹介

1月末日までに企画広報委員会に報告が寄せられた資格取得者は次の通りです。

■は、今年度キャリアカレッジ当該講座受講者

行政書士試験
■三瓶智詞　法律学科4年（千葉県立松戸馬橋高校出身）
■永山翼　法律学科4年（埼玉県立川越初雁高校出身）
■中山修二　法律学科3年（茨城県立土浦第一高校出身）

宅地建物取引主任者資格試験
■町野勇太　法律学科4年（埼玉県立児玉高校出身）
■小林亮太　法律学科3年（群馬県立吉井高校出身）
■吉澤裕太　法律学科3年（埼玉県立深谷第一高校出身）
■吉村俊　法律学科3年（都立久留米高校出身）
■下田拓郎　法律学科2年（私立堀越高校出身）
■高久昇　法律学科2年（市立川口総合高校出身）
■藤波龍利　法律学科2年（都立久留米西高校出身）
■笠井達也　法律学科1年（長野県長野南高校出身）

管理業務主任者試験
藤波龍利　法律学科2年（都立久留米西高校出身）

初級システムアドミニストレータ試験
高木亮　経営情報学科3年（埼玉県立所沢商業高校出身）

商工会議所簿記検定試験
3級
■福嶋夏海　法律学科3年（私立浦和学院高校出身）
■松並和也　経済学科2年（茨城県立水海道第二高校出身）
■加藤敦子　経営情報学科2年（新潟県立三条東高校出身）
新藤加奈　経済経営学科1年（私立星野高校出身）

販売士検定試験
2級
■上野知宏　法律学科4年（都立荻窪高校出身）
■平井宗幸　法律学科3年（長野県岩村田高校出身）
安部哲也　法律学科2年（宮城県志津川高校出身）
向井沙也加　法律学科2年（千葉県立安房南高校出身）
小澤裕史　経済学科3年（埼玉県立飯能高校出身）
渡部直規　経営情報学科3年（群馬県立沼田高校出身）
大越貴紀　経済経営学科1年（福島県立安積黎明高校出身）
石川透　文化情報学科3年（私立山形城北高校出身）
大島久美子　文化情報学科3年（私立白鴎大学足利高校出身）
佐藤華奈　比較文化学科3年（北海道美深高校出身）
大浦拓実　心理学科4年（埼玉県立所沢西高校出身）

秘書技能検定試験
2級
石毛桃子　法律学科2年（千葉県立匝瑳高校出身）
石澤玲華　経済学科2年（私立山形城北高校出身）
遠藤江見子　経済学科2年（埼玉県立川越南高校出身）
須藤有香　経営情報学科2年（私立白鴎大学足利高校出身）
寺沢恵美　経営情報学科2年（長野県長野南高校出身）
須田優子　文化情報学科3年（長野県長野南高校出身）
渡辺さやか　比較文化学科2年
他3名（匿名希望）

日本漢字能力検定
2級
寺沢恵美　経営情報学科2年（長野県長野南高校出身）

情報活用試験（J検）
1級
■武井千里　心理学科3年（長野県小諸高校出身）
2級
■藤肥康司　経済経営学科1年（秋田県立大曲高校出身）
■山﨑純　知識情報学科3年（新潟県立新津高校出身）
■鴨下恭兵　メディア情報学科2年（埼玉県立川越南高校出身）
武井千里　心理学科3年（長野県小諸高校出身）

■梶岡翔太　知識情報学科3年（都立東大和南高校出身）
■尾辻泰之　メディア情報学科2年（和歌山県立大成高校出身）
他1名（匿名希望）

■工藤香奈子　心理学科4年（都立光丘高校出身）
■武井千里　心理学科3年（長野県小諸高校出身）
山口寛之　心理学科2年（新潟県立両津高校出身）

資格を取得した学生は、所定の「資格取得報告」用紙に記入の上、ゼミナール教員にぜひ報告して下さい。

40

本学の教育の大きな特色のひとつであるゼミナール。各学部のゼミナールを2つずつ取り上げ、紹介していく。第40回目となる今回は、現代文化学部の吉野瑞恵ゼミと青山征彦ゼミ。

吉野（よしの） 瑞恵（みずえ）ゼミナール

平安時代の物語を読む

●ゼミではどういうことをしているのですか？

『源氏物語』などの平安時代の物語を現代語訳で読んでいます。各自の担当箇所を決めて、興味を持った箇所を調べて発表してもらっています。発表についてみんなでコメントしますが、物語の世界に入り込んで、自らが登場人物になってしまったかのような熱い意見が出てくることもあります。そのほか、「日本家屋の変遷」「日本と韓国の美人観の相違」といったような自由なテーマでのグループ発表もあります。

●卒業論文ではどんなテーマを扱うのですか？

『源氏物語』の登場人物をテーマにしたもの、『源氏物語』の漫画をいくつか取り上げて、そこで漫画の作者がどのように作品を解釈しているか比較・分析したもの、平安時代の理想の妻像を考察したもの、といったようにさまざまです。

●学生はどんな感じですか？

広く日本の文化に興味を持っている学生たちで、歴史好き、物語好き、などさまざまです。中国や韓国の留学生もいます。留学生たちは勉強熱心で、卒業後に大学院で日本文学の研究を続けたり、母国の大学で日本語の先生になる予定の学生もいます。

写真の本は、平安時代の代表的な文学作品とその翻訳（英訳・仏訳・中国語訳の『源氏物語』研究書）です。海外旅行に行くと、必ず大きな書店に行って、日本文学コーナーをチェックします。特に韓国では日本で売れている小説や漫画が間髪を入れずに翻訳されて本屋に山積みになっているのに驚きます。
フクロウの置物は鳥好きの私のコレクションの一つです。フクロウは知恵の象徴なので、演習の紹介にはぴったりと思って選びました。

●ゼミで学生に伝えたいことは何ですか？

時間軸を遡れば、自分たちとは違う考え方をする人々がいる。留学生たちと語り合えば、さまざまな面で文化の違いに気づく。そんなふうにして、自分とは異なる世界や価値観に対する理解を深めて、他者に対する想像力を養ってほしいと思っています。

ゼミ生は語る

写真左から
宮野 桂子　心理学科３年
（みやのけいこ・山梨県立吉田商業高校出身）
小川 峰央　比較文化学科３年
（おがわたかひろ・埼玉県立川越南高校出身）

―ゼミではどんなことを勉強していますか？

宮野　吉野先生のゼミでは『源氏物語』を使い、学生が自分の担当箇所のあらすじや疑問点などを調べ、発表していくという形式をとっています。私は昔から『源氏物語』に興味があり、先生のゼミでより物語に対する知識を深めたいと思い、このゼミを選びました。発表を通して、物語に対してだけでなく、平安時代の生活様式、時代背景など幅広く知識を深めることができます。

また、中国や韓国の留学生もいるので、それぞれの国の話を交えながら、新しい発見ができるのも魅力のひとつです。夏には京都へのゼミ合宿もあり、ゼミで深めた知識と、吉野先生の話を聞きながらの京都の町は、今までとは違った視点で巡ることができ、とても楽しむことができました。

小川　私はスタディスキルズ、教養演習、そしてこの演習と４年間にわたって吉野先生のご指導を賜っています。そんな私が一言で吉野ゼミを表すと「おもしろい」ゼミです。

吉野先生はゼミでは必ず何人かの学生に質問をさせ、その意見に対して何かしらコメントをくださるので、自分の意見を持っている人には楽しいゼミです。また、学生とのやりとりの中でさまざまな方向に話題が飛んだりするので、そういう意味でも「おもしろい」と言えます。

昨年は源氏物語の「須磨・明石」の巻を取り上げました。私自身は源氏物語にはあまり興味がありませんでしたが、源氏物語を通して平安時代の習俗に触れることができて、大変勉強になりました。また４年生の卒業論文の経過発表をゼミ全員で行うので、３年生のうちから卒論を意識することができました。

Selected Seminars

現代文化学部

あおやま まさひこ
青山 征彦ゼミナール

メディアとコミュニケーションの心理学

●ゼミのテーマは？

メディアと人との関係について考えています。メディアといっても、テレビや新聞のようないわゆるマスメディアだけでなく、人と社会とがつながりあうために使うものであれば、何でもメディアになると思います。たとえば、ロリータ系のファッションが好きな人は、そうした服を着ることで、自分と社会とのつながりを作っているのだと思います。服もメディアになるというわけです。

●卒業研究はどんな感じですか？

心理学的なテーマもありますが、コスプレやアニメ、ロボットといったオタク方面のものも多いですね。ファッションをテーマにしたものや、方言などの言葉をテーマにしたもの、スポーツの歴史を検討したものなど、テーマはいろいろです。ただ、メディアと人との関係に着目するという方法論は、共通していると思います。

●個性的なテーマが多いですね。

そうですね。ゼミ生も個性的です。こちらが知らないようなことでもよく知っていますし、興味、関心も幅広いです。オタクとか、マニアと言われるような人は、他のゼミより多いかもしれませんね。興味をひくのか、他のゼミから遊びに来る人もいますよ。

大学時代は心理学と同じくらい、音楽を一生懸命やっていました。ＣＤもたくさん持っています。右奥の本は、ゼミの教科書です。ケータイについて考えてみたいと思って選びました。説明についても研究しているので、取扱説明書は大切な研究対象です。青い本は、欧米の取扱説明書の表現を集めたものです。汗っかきなので、手ぬぐいは必需品。これは学生さんからのプレゼントです。野球は、ヤクルトスワローズのファンです。球場まで応援に行ったりもしますよ。

●ゼミではどんなことを大切にしていきたいですか？

私自身は心理学が専門ですが、人と社会との関係を読み解いていくためには、社会学や文化史など、関連する領域にも関心を持ってほしいと思います。やみくもに知識をつめこんだりするよりも、さまざまな資料を集めて、ていねいに分析する力を身につけてほしいですね。

ゼミ生は語る

左から
関本 薫　心理学科３年
（せきもとかおる・都立青梅東高校出身）
橋場 敏美　心理学科３年
（はしばさとみ・群馬県立吉井高校出身）

橋場　青山ゼミの紹介ですが…。
関本　そうですね。どんなことをしているかというと。
橋場　まず、教科書の１章を一人ずつが担当していて、その部分の要約や解説、自分の意見を発表しているね。ほかには、新書を１冊読んで、その要約や感想も発表しているよね。
関本　みんないろいろな本を読んでいたね。実は、私両方とも発表の前日まででできていなかったんだ。
橋場　本当に？　いつもギリギリだね。
関本　ギリギリだけど頑張っているよ。
橋場　あと、学園祭でも発表をしたよね。
関本　『駿大生活』というテーマで、アンケート調査の発表をしたね。
橋場　私たちはサークルもあったのでかなり忙しかったけど…。
関本　そうだね。正直不安だったけど、意外とアンケートを集めるのは楽しかったし、集めたアンケートをパソコンに打ち込むときも、メディアセンターに集まってみんなでやったよね。充実していたね！
橋場　ちょっと忙しかったけどすごくやりがいがあったし、終わったあとの達成感も良かったね。
関本　あと、ゼミでやっていることといえば？
橋場　プロジェクト発表だね。自分のやりたいテーマを持ってきて、４人～８人でグループを作り、発表をしているね。いろいろなテーマの発表があるよね。
関本　小学生のネット利用について調べたり、依存症や音楽のことを調べたりと、本当にいろいろなテーマを取り上げているよね。つまり、青山ゼミとは？
橋場　青山ゼミとは『個性豊かで楽しいゼミ』だね！

学部デー体験報告

間伐を通して自然と触れ合う

知識情報学科4年　宇津木 淳志

11月28日（水）、学部デー企画の一環として、駿大の森にて間伐作業が行われた。「森林文化」の中核を担うイベントである。

今回は、草刈り作業と間伐作業を、2つのグループに分かれて行う事になり、私は間伐作業に加わった。

間伐作業が行われたのは、駿大の森からやや離れた場所、「駿大の林」と呼ばれる人工林の一帯である。ここでグループは複数の班に分かれ、それぞれ1本の杉を伐採する事になった。

対象となる木には、目印として赤いテープが巻かれており、これを鋸で切り倒せば良いわけだが、これが難しい作業であった。

幹を切り進むと徐々に木が傾くため、油断すると鋸が挟まり、抜けなくなってしまうのだ。静寂な森の奥深くで黙々と作業をする様は、まさに自然との戦いで、切り倒した時には大きな感動と共に爽快な気分を味わう事が出来た。

間伐作業後は、駿大の森にて下草刈りを行っていたグループと合流し、新たな苗木を植えた。この地に根付き、10年、20年先、自分の背丈を超えた豊かな森になっていて欲しいと思う。

100年にも渡る壮大なプロジェクト、その行く末が楽しみだ。

（うつぎあつし・私立武蔵越生高校出身）

作業中の宇津木君（手前右）

ドイツ語弁論大会で続々入賞

経済学部教授　明石 真和

12月上旬、全国的な学生ドイツ語スピーチコンテストで、3名の駿大生が入賞した。

先ず、12月1日（土）に京都外国語大学で開催された「第8回全日本学生ドイツ語弁論大会」では、ウィーン語学研修での感動をユーモラスに語った久枝悠人君（法律学科2年・私立滝川第二高校出身）が4位に入賞。「経済発展の中で失ったものも多い」と主張した鈴木達仁君（比較文化学科4年・栃木県立黒磯南高校出身）が5位に入った。さらに、翌日12月2日（日）の「第46回南山大学ドイツ語弁論大会」では、「表示偽装より食料自給率の低さこそ問題」と指摘した小笠原由佳さん（心理学科2年・群馬県立高崎東高校出身）が5位となった。

外国語弁論大会では、発音や表現力にもまして、内容そのものが重要な審査ポイントとなる。今回の3名は、自らの問題意識や身近な体験をもとに原稿を作成したことが高い評価につながった。常に題材やテーマを考え、自分のことばで表現してみることは、勉学や就職活動にも応用できるであろう。外国語弁論大会出場の第一歩は、日本語の作文から！　来年も、多くの方が参加してくれることを願っている。

（あかしまさかず・ドイツ語）

京都外国語大学にて。鈴木君（前列左から2人目）、久枝君（同3人目）、小笠原さん（同6人目）

経済研究所主催 公開講演会実施報告

現代に生きる渋沢栄一

～受け継ぐべき思想と行動～

講演者 井上潤（いのうえじゅん）氏

経済研究所長　水尾 順一

経済研究所は、12月15日（土）に井上潤氏（渋沢史料館館長）による第30回経済研究所講演会を実施した。講演テーマは、「現代に生きる渋沢栄一～受け継ぐべき思想と行動～」で、学生、一般市民、教職員など約300名が熱心に聴講された。

その概要は以下のとおりである。

日本に近代的経済社会の基礎を築いた渋沢栄一（1840～1931年）は、没後76年を迎えた今日においてもテレビや新聞、雑誌で頻繁に取り上げられる。日本型の政治・経済システムが制度的に行き詰まり、道徳的な面でもさまざまな矛盾がみられる中で、「今一度、渋沢栄一の思想と行動を学ぶべき」という声が高まっているからである。

渋沢栄一は、自己の利益を求めず、公益を優先し、官の補完でない、民間先導の活動によってこそ日本の発展があり、国際社会への貢献があるのだという信念を持ち続けた。これからの時代、まさに官と民が一体となった新しい公益の実現を目指すことが求められているように思われる。だからこそ、今一度、公益の追求をした人物・渋沢栄一の91年の生涯を振り返りつつ、彼の行動から考えを読み解き、そこに内在する「現代的意義」を探ることが重要となる。

道徳経済合一説をはじめ、渋沢栄一が主張した指導と行動は、「論語とそろばん」などで、企業の不祥事や国政の混迷など現代社会の直面する問題に大きなヒントを投げかけてくれた。また、先人の遺産を守る大切さを感じつつ、彼の企業倫理の実践やリーダーシップなどを学ぶことで、日本型の組織による経済社会への貢献は我々の未来に重要な示唆を与えてくれた。

（みずおじゅんいち・マーケティング論）

おめでとうございます!!!

128名もの受講者に修了証書を授与

～公開講座「彩（いろどり）・ふるさと喜楽学（きらくがく）」～

企画広報委員長　水尾順一

2007年度も、土曜日のキャンパスがにぎやかだ。5年目を迎えた地域学公開講座「彩・ふるさと喜楽学」（当初2年間は、「飯能学」の名称で実施）の受講者が放つ中高年パワーでひときわ華やいでいる。

その講座の閉講式が12月15日（土）に開催された。

当日は閉講式に先立ち、成田憲彦学長から「どういう社会が望ましいか～社会の最適状態に関する諸理論～」と題して記念講演が行われた。

記念講演に引続き開催された閉講式では、今年度は128名もの受講者が修了証書を手にされた。24回中20回以上の出席で感激も新たに、そのうちなんと23名の方々が全24回の皆勤であった。

しかも、驚くなかれ、5年中4回皆勤賞の方が2名、さらに「5年連続皆勤賞の女性が1名」いる。すばらしい精神力と健康力（あえてこの言葉を使いたい）の人たちであり、本当に頭が下がる思いである。

修了証書が成田学長から一人ひとりに手渡された瞬間、多くの受講者は笑顔満面の喜びを表現され、この1年をお互いに称えあった。

今年の受講者は483名で、全24回の受講者総数は5,303名にも上っている。

また、5年目の開催であるが、2回以上の修了の受講者が117名で、その内16名がなんと5年連続修了と言う偉業を成し遂げた。

これまで述べた数字からも、「飯能学」から数えて5年間、地域に根ざしたこの講座が市民の皆さんから支持されていることがよくうかがえる。

2008年度からは、これまでどおりの飯能市、入間市の共催に加えて、新たに所沢市にも後援と言う形でご協力を頂くようになった。その意味からまた新しい受講者の方々も増えてキャンパスが賑わいそうだ。

4月19日の土曜日からスタートで、楽しい、そしてわくわくするような内容が盛りだくさん計画されている。市民の方々だけでなく、学生諸君も是非参加して欲しい。

（みずおじゅんいち・マーケティング論）

いつものパフォーマンスで卒業を祝おう！ Sundai Art Fes. 実施報告

Sundai Art Fes. Create Staff 'SACS' 代表
文化情報学科4年　杉本 祐介

昨年2月、開学20周年記念イベントとして開催された「Sundai Art Fes.」。その第2回を2月16日（土）に開催しました。前回は芸術祭という案から始まった企画で、音楽、ダンス、演劇、映画と、様々なパフォーマンスを一堂に集めるという贅沢な内容でした。今回は芸術祭としての流れに、新しく『卒業』をテーマとして設定。迫る卒業を、学生たちがいつものパフォーマンスで祝い、盛り上げる、そんな『賑やかな卒業式』を目指しました。

今回はイベント会場として、第2講義棟15階のレセプションルームを開放していただきました。普段は入ることのできない特別なフロアを使え、スタッフ・出演者ともに一層このイベントへの意気込みを強いものにしました。

会場内には、イベント企画の肝となるステージを組み、他にも4階で映画上映と自作イラストの展示、1階ロビーでは、スタッフによる様々な装飾を用意。パフォーマンスをステージ上に限らない、多様な企画で準備しました。

天気にも恵まれたイベント当日。オープニングではまばらだった客数も徐々に増え、最後の演目であるバンド演奏時には、それまでの出演者と来てくれた人たち全員が一緒に盛り上がりました。

今回はスタッフと出演者が『卒業』という同じ目線でイベントを作れた、そう実感できるクライマックスでした。

昨年の第1回に引き続き、今回もほとんどが手探りの状態でした。スタッフ一同意見を出し合い、手を動かし、汗をかいて精一杯作り上げました。そのおかげで想像以上の出来だったものもあれば、叶えられなかった企画やアイディアも沢山ありました。僕はもう卒業するので関わることはできませんが、第3回アートフェスでは形は変われど、より質の高いイベントになることを願っています。今回のアートフェスはまだまだ未熟な部分もあり、だからこそ、今後の成長を期待したくもなるイベントだとも思えました。

（すぎもと　ゆうすけ・埼玉県立庄和高校出身）

外国人留学生 スキーツアー実施報告

本学では、各国からの留学生同士の交流を深めるため、例年様々な行事を行っている。今回初めて、留学生対象スキーツアーが企画され、2月4日（月）～6日（水）にかけて、長野県志賀高原横手山スキー場で実施された。18名の参加者のうち16名は生まれて初めてのスキー体験だったが、皆存分にスキーを楽しんだ。特に、横手山山頂2，305mからの眺めは格別で、日本留学の思い出のひとつとして、留学生の心に深く刻まれた。

経営情報学科2年　黄燕玉

今回、スキー旅行に参加して、本当によかったと思いました。中国の南の方に生まれたので、今まで全然雪を見たことがありませんでした。今回、こんなにすごい雪を見て、心からうれしく思いました。ただ、スキーは、初めてでとても心配でした。最初、スキーの履き方、滑り方を教わり、滑走。リフトに乗り、初級者コースで練習しました。3回目までは転びましたが、あとは順調でした。その後、中級者コースに行こうと誘われたとき、勇気がありませんでしたが、先生にやさしく教えてもらって感動しました。横手山の頂上にも行きました。ちょうど晴れてきて風景が、きれいだったのでいっぱい写真も撮りました。今日は、中国の大晦日ですが、良い思い出となりました。今回のスキーは一生忘れられないです。ありがとうございました。

※今年は2月7日が中国の正月

（コウ エンギョク・留学生・中国）

文化情報学科3年　何 欣

雪を余り見たことがない私は、「スキーなんてできるかな」と思いました。しかし、先生たちに教えてもらい、よく滑れるようになりました。友達とも一緒に滑ることができておもしろかったです。今はまだ、初心者コースしか滑れませんが、次回、チャンスがあるならば、もっと上のコースに行ってみたいです。今回は本当にいい経験ができて、とても良い思い出となりました。

（カキン・留学生・中国）

黄さん（前列左）と何君（後列右）

教養文化研究所主催 体験学習会 実施報告

体感！コーディネーショントレーニング

―誰でもコーディネーションで運動神経はよくなる!!―

講師　菅野美津枝氏　小田俊一氏

法学部准教授　狐塚賢一郎

12月15日（土）、NPO法人日本コーディネーショントレーニング協会理事・事務局長菅野美津枝氏、同協会講師小田俊一氏による「体感！コーディネーショントレーニング―誰でもコーディネーションで運動神経はよくなる!!―」が開催された。

学習会は体育館1階5101教室での講義と2階アリーナでの実技を交え、10時から昼食をはさんで15時まで、3時間40分にわたる内容の濃いものだった。

コーディネーショントレーニング（以下COT）は旧ソ連、旧東ドイツで開発が進められたトップアスリート養成のための、運動のセンスや運動能力を高めることを目的としたトレーニングである。日本では、各競技のジュニア養成はもちろんのこと、幼稚園、保育園から小中学校の学校現場や、高齢者施設などでも導入が進んでいる。また京都府舞鶴市の海上保安学校でも海上保安官の運動能力向上のためにCOTが取り入れられ成果をあげている。

生活環境の変化から子どもの体力低下が大きな問題となっているが、むしろ運動能力の低下がより大きな問題であり、それを具体的に高める方策としてCOTが大きな可能性を有していることを実感できる講習会であった。参加者は17名と少なめではあったが、本学学生、教員の他、近隣の小中学校の教員、スポーツ少年団の指導者の方たちも参加し、「COTを学べたことで子どもたちの運動能力、競技能力を伸ばす方法として大きなヒントを得ることができた。」と大変好評であった。

（こづかけんいちろう・健康・スポーツ実習）

実技風景

ニュースポット

●北星学園大学へ初の国内留学生が決まる！

2006年9月に国内留学協定を締結した北星学園大学（札幌市）へ、本学から初めて学生を派遣することとなった。派遣が決まったのは、心理学科2年の渡邊信也（わたなべしんや）君（埼玉県立鷲宮高校出身）。今年4月から9月まで、同大学の社会福祉学部福祉心理学科で学ぶ。渡邊君は、「現代社会における心理を詳しく学んでみたい」と、意気込みを語った。

●障害者カヌープロジェクトが「優秀成果」に選ばれる

2006年度実施された「入間川での障害者カヌーによる交流」プロジェクトが、平成19年度河川整備基金助成事業（㈱河川環境管理財団主催）の「優秀成果」に選ばれた。同プロジェクトは、経済学部の土方幹夫教授および渡辺裕子准教授を中心に実施され、本学の教職員、カヌー部員、ボランティア学生らが参加。車椅子カヌーの製作や障害者カヌー教室の実施、リバーマップの作成などを行ったことが、高く評価された。

●留学経験者がカフェを運営

2月12日（火）から5日間、2006年度モナッシュ大学（オーストラリア）派遣留学生有志9名が、東京・渋谷でカフェ「Tim Tam」を運営した。心理学科4年の高橋由美子（たかはしゆみこ）さん（埼玉県立所沢中央高校出身）が、「卒業を前に、留学を通して仲良くなったメンバーと何かやりたい」と、呼びかけたもの。期間中には、留学時の学友が外国から駆けつけたり、「同じ頃、豪州に留学していました」という客の来店などもあり、共に留学生活を振り返った。

アメリカ留学日記21

D.C.で感じた「アメリカらしさ」

比較文化学科３年
根本 和那
（セント・マイケル大学派遣留学生）

10ヶ月の留学生活もおしまい。いよいよ帰国することになりました。アメリカで一番印象に残っているのはヴァーモント州の豊かな自然もそうだけど、ルームメイトと一緒に行ったワシントンD.C.旅行も印象に残っています。

D.C.はホワイトハウス、国会議事堂、博物館、硫黄島モニュメントなどがモールと呼ばれる公園を中心に点在しています。緑も多く人が働くために作られた感じがします。なので、首都として機能性があり人が過ごしやすく、国会議事堂からワシントン記念塔への眺めもとても綺麗です。アメリカらしいと思ったのは白く四角い墓石が緑の芝生にたくさん並んでいるアーリントン国立墓地に行った時に、軍服を着て歩いている人達を見たときです。国のために働いている感じがしました。テレビでも軍隊のドキュメンタリーをやっていたり、自分のルームメイトは大統領選挙で盛り上がったり、こういう、国のために、という感覚は自分にはないなとも思いました。

D.C.では様々な人種の観光客や博物館の職員などがいてこれらもアメリカらしさの一つだと思いました。自分が住んでいたヴァーモント州はアメリカ人が多く、D.C.では多民族国家という感じを受けました。でも、D.C.でいろんな言語を耳にしたのに日本人の観光客を一度も見かけなかったのは不思議です。この多民族に対する政策も大学では第二外国語としてスペイン語や中国語などが取れるようになっていてしっかりしています。この旅行でいわゆるアメリカらしさというのを感じ取れていい経験になりました。

（ねもとかずな・埼玉県立秩父農工科学高校出身）

硫黄島モニュメントの前で

ミュンヘンからの便り29

できるかどうかじゃない。やりにいくんだ！

比較文化学科４年　大平百合子
（ミュンヘン大学交換留学生）

たくさんの思い出の中に、ドイツに残してきたモノがある。9月にベルリン・マラソンに出場し完走してきた記録だ。一昨年に一般の人でも出場できると知り、留学している機会に何か結果を残せたら……、という思いから出場を決意。マラソン競技の出場は初めてだったので不安もあったが、実際に走ると決めてからは時間を見つけながら走り込みをした。

大会当日は、20kmを過ぎた辺りで体力が底をつき始め歩くこともしばしば。もちろんたくさんの声援があるわけだが、その中で野次が飛んでくることも。制限時間が残り2時間ほどになったある時、私は不安になり、偶然一緒に走っていたスウェーデン人女性に「もう時間がギリギリでしょ？　私、このままゴールできると思う？」と聞いてみた。彼女は「分からない。でも、あなたは今からそれをやりに行くのよ！」と、答えてくれた。私は彼女の言葉に力を借りて、ゴールすることだけを考えて走った。最終ポイントのブランデンブルク門が見えたとき「この門をくぐった先にゴールがあるのだ」と思うと、嬉しくて涙が出てきた。ゴール付近ではたくさんの声援が響き渡っていた。

記録は6時間8分11秒。制限時間が6時間15分なので、公式タイムとしてはギリギリだが、それでも42・195kmを走りきったことは1つの自信になった。

いまだに語学力のなさで落ち込むことはしょっちゅうだが、自分から他の世界に飛び出すことで、たくさんの出会いやチャンスを掴むことができることを、ここから学んだ。彼女が与えてくれた言葉をもとにした、私のモットー「できるかどうかじゃない。やりにいくんだ！」で、今後も新たな自分の記録を塗り替えていきたい。

（おおひらゆりこ・都立鷺宮高校出身）

ローテンブルクのクリスマス市にて

聊城からの手紙14

中国の食

法律学科３年　齋藤 百合
（聊城大学交換留学生）

私が中国に来て最初に触れた文化は、料理です。到着したばかりの青島空港で、初めて食べた中国料理は、海に近い青島ならではの海鮮料理でした。日本人にも馴染みのある塩味で、貝のスープや炒めた魚など、日本食慣れしている私でも、比較的食べやすかったことを覚えています。

しかし、私が生活をしている場所は、山東省の内陸の方に位置していて、海産物はあるものの質はあまり良くなく、食べる人も少ないようです。その代わり、肉料理を多く見るように思います。その肉料理の中でも、中国で一般的に人々に食べられているものとして、「羊肉串」があります。羊肉をあまり見ない日本では珍しい物と思います。羊肉串とは、簡単なもので、日本の焼き鳥を鶏肉から羊肉に換えただけのものです。しかし、味付けは中国ならではのものとなっていて、香辛料が強く、辛いものが嫌いな人は食べにくいかと思います。私の感想は、羊肉独特の臭さはあまりなく、おいしいと思います。

中国料理の特徴として、日本と違うところは、油っぽいところです。中国では油が多い分だけ良いとされ、油が少ないとお金がないように思われるそうです。それで私の胃が重くなることが度々あります。

留学以前は中国での食事が心配でしたが、実際に中国の食文化に触れてみて、興味深いことがたくさんありました。中国の食文化は私の想像以上に、歴史が長く奥が深いものでした。

（さいとうゆり・私立郡山女子大学附属高校出身）

左から2人目が齋藤さん

モナッシュ通信 vol.19

僕を奮い立たせた友人からの手紙

経営情報学科２年　長下 歩
（モナッシュ大学派遣留学生）

半年間を振り返ると非常に充実した時間を過ごすことができたと思います。日本でやりたいことも見つかり、今は早く日本に帰り次の目標に向かって頑張りたいです。しかし、せっかくオーストラリアにいるので帰る日にちまで精一杯遊んでやりたいと思います。

私にとってこの留学は大成功でした。僕が成功できたのも色々な人の支えがあってのことでした。特に一人の友人の手紙は私を奮い立たせる原動力になりました。「半年っていう時間をボーッと過ごしても充実した時間を過ごしても半年なんだよね…」私はこれを読んで絶対に無駄な時間は作らないようにしようと決め、結局それがいい方向に私を向かせてくれたと思っています。親の存在の大きさ、日本で私を待っていてくれる友達、そして、オーストラリアでの出会いや別れ。様々なことが起こり、様々なことに気づかされました。

この留学は語学の成長以上に新しい価値観や見聞を広めさせてくれました。オーストラリアで得た貴重な体験を今後、日本に帰りどのように生かしていくのか。更なる成長の糧にしたいと思います。

（ながしたあゆむ・都立久留米高校出身）

中央が長下君

交換留学生帰国

昨年４月から本学へ留学していたドイツ／ミュンヘン大学からの交換留学生２名と韓国／延世大学からの交換留学生１名、昨年９月から本学へ留学していた韓国／延世大学からの交換留学生１名の計４名が留学期間を終え帰国した。日本での留学生活について感想を寄せてもらったので紹介する。

延世大学交換留学生 KWON, BO KYONG（クォン ボキョン／權保璟）

時間が本当に早くすぎました。１年間の日本での生活もそろそろ片づけをしなければならないのです。まだ日本でやってみたいことがいっぱいのこっているので、もったいないきもちです。はじめ来たばかりの時、日本語はぜんぜん下手だし、交換留学生の中でも韓国人は私だけでした。「１年間の長い時間、大丈夫かな？」と心配も大きかったんです。でも本当にみなさんが私にやさしくしてくれて、いい経験となつかしい思い出をいっぱい持って帰ります。まず、いろいろなともだちができてほんとうにうれしいです。とくに春学期に、ひとりだった私のことを心配してくれたハワイとドイツのともだちに、ありがたい気持ちをつたえたいです。世界のだれでもいいともだちになれる！と自信もできました。ゴルフサークルの人々にも本当に感謝します。のみかいであったいろいろな人々にも感謝します。とくにドイツのともだちといっしょに行ったドイツ文化会は、私がドイツのことをなにもわからなくても親切にしてくれたり、私をよんでくれたり、本当にありがとうございます。私の面倒をみてくれた日本語の先生と大学の先生もありがとうございます。フロンティアタワーズのみなさんもありがとうございます。もう韓国にもどるなんて本当にもったいないです。もし機会があったらまた日本へ来たいです。

おとうろう祭りにて。右から2人目がクォンさん

延世大学交換留学生 KIM, JI MIN（キム ジミン／金智敏）

これまでも日本の伝統・現代文化などに興味があって何回も日本に来たことはあります。有名な観光地にはほとんど行ってみたと思います。しかしそれだけでは何かが足りなかったです。私は観光じゃなくて生活がしてみたかったです。よって駿河台大学での半年間には大満足です！　快適で便利な寮があって生活もしやすかったし、いろんな人達と知り合いになって楽しい思い出もたくさん作りました。

空港に着いてから日本の生活に慣れるまで助力してくれた企画課の皆さん、日本文化の体験が出来るように色んな行事を紹介してくれた駿大ふれあいハウスの山尾先生、あんまり役に立たなかったと思うけどいつも可愛がってくれた韓国語しゃべり場の方々、YONSEIについての話が通じる朴先生と韓国留学派のみんな、日本のファッションを教えてくれたSaiのみんな、いつも部屋に招待してお茶を飲みながら色んな話をしてくれたり、寮で出来る日本文化体験のすべてをさせてくれた、もう家族みたいな由佳ちゃんと松子さん。みんなにありがたい気持ちで胸がいっぱいです。一生忘れられない思い出、ありがとう！

ミュンヘン大学交換留学生 KEKULE, FRANZISKA LAURA（ケクレ フランチスカ ラウラ）

駿河台大学へ来る前に日本語を少しだけしか話せないので、最初は留学に自信がありませんでした。少し苦しみました。しかし、心優しい先生と学生のおかげで、その気持ちはすぐに変わりました。１年間、日本人の規範意識を知り、そして素晴らしい体験をしました。日本人と親交を結んだり、夏休みに大阪・神戸・京都へ行ったり、富士山で日の出を見たり出来ました。寮ではピアノをひくことはできませんでしたが、いろいろなライブへ行くことができました。私の日本語は未熟でも、一番重要な経験をしました。日本人とドイツ人はお互いに気が合うと思います。帰っても日本語の勉強を続けたいです。しばしば日本へもどりたいです。皆さんに情がうつりました。いろいろお世話になりました。本当にありがとうございました。

オリエンテーションキャンプで行った草津温泉にて。一番左がフランチスカさん

ミュンヘン大学交換留学生 KLEIN, JULIA INGRID MARIA（クライン ユリア イングリッド マリア）

日本での１年間があっという間に過ぎたかのような気がします。交換留学生として駿河台大学でいろいろな勉強ができて一番よかったと思います。外国で何年間も日本語を一生懸命勉強していても本当の日本での生活が経験できなければ、あまり進歩ができないと思います。１年間暮らせて、毎日日本語が使えて本当に勉強になりました。１年間日本で生活していても、まだわからないことがたくさんありますが、日本のことをもっとわかるようになるために、これからミュンヘン大学でももっと日本学の勉強でがんばりたいと思います。この１年間でいろいろお世話になって、みなさんに心から感謝したいです。これから駿河台大学に留学するみなさんにも私と同じように幸せな１年間が過ごせることを願っています。本当にありがとうございました。

交換留学生・派遣留学生決まる！ 2008年春出発

○派遣留学生

エセックス大学（イギリス）
留学期間　2008年4月～2009年3月
法律学科2年　越田篤志（こしだあつし・私立星稜高校出身）

セント・マイケル大学（アメリカ）
留学期間　2008年4月～2009年3月
経営情報学科2年　竹下　優（たけしたゆう・都立東村山西高校出身）
文化情報学科3年　平沼承祐（ひらぬまひろゆき・私立東京学館浦安高校出身）
比較文化学科3年　井上泰輝（いのうえやすき・私立錦城高校出身）
比較文化学科2年　吉川　純（よしかわじゅん・私立栄北高校出身）
現代文化学部1年　日高愛実（ひだかまなみ・都立秋留台高校出身）

カリフォルニア州立大学イースト・ベイ校（アメリカ）
留学期間　2008年4月～2009年3月
法律学科2年　木村優里（きむらゆり・私立共愛学園高校出身）
法律学科2年　丸山智大（まるやまともひろ・私立東京立正高校出身）

○交換留学生

ハワイ・パシフィック大学（アメリカ）
留学期間　2008年4月～2009年3月
現代文化学部1年　片桐伊都可（かたぎりいつか・都立昭和高校出身）
経済学科2年　小泉玲欧（こいずみれお・私立東京高校出身）

ミュンヘン大学（ドイツ）
留学期間　2008年4月～2009年3月
心理学科2年　小笠原由佳（おがさわらゆか・群馬県立高崎東高校出身）

聊城大学（中国）
留学期間　2008年4月～7月
文化情報学部1年　塩野好紀（しおのよしのり・栃木県立鳥山高校出身）

延世大学（韓国）
留学期間　2008年4月～2009年3月
法律学科2年　鈴木純一（すずきじゅんいち・私立修徳高校出身）
法律学科2年　細田由衣（ほそだゆい・埼玉県立飯能高校出身）
比較文化学科2年　後藤　優（ごとうゆう・私立尚絅学院女子高校出身）

剣道部

関東新人戦で上位進出

12月1日(土)、東京武道館(東京都足立区)で行われた第8回関東女子学生剣道新人戦大会(女子団体)で、剣道部がベスト8に進出した。さらに、8日(土)の第53回関東学生剣道新人戦大会(男子団体)においても、ベスト16に入った。

女子新人戦には78大学が参加。シード権のある本学は2回戦から、相手は中央大学。一昨年も完勝した相手に中堅横田さんの2本勝ちで1対0のスタート。3回戦の相手は古豪茨城大学。先鋒、次鋒と分けて、横田さんが相手の反則による1本勝ち。副将岡田さんが面1本で勝負を決めた。

4回戦の清和大学戦は、先鋒が1本負け。次鋒、中堅は互いに決め手に欠け分け。副将横田さんは先に胴を奪うが、終了間際に面を取られ3連続引き分けに。ここで大将井上さんが意地の小手でタイに持ち込み、代表者戦へつなげた。この場面、波多野登志夫師範は代表に岡田さんを起用。1本先取り勝ちとなる代表者戦。岡田さんは期待に応えて小手を奪い、ベスト8を決めた。

胸を借りた筑波大学戦は0対5で敗れた。筑波大学はその後も圧倒的強さで優勝を飾った。

男子はベスト16へ

翌週に行われた男子新人戦には91校が参加。女子の5人制に対し男子は7人制を取る。男子もシード権を持つ本学は2回戦、獨協大学戦に5対0、全て1本勝ちの好調な出足を見せる。3回戦、対群馬大学も先鋒半澤君が2本勝ちを納めると、池田君、江口君、佐藤君の3連続2本勝ちを含む5対1で大勝した。

4回戦の専修大学戦は先鋒中村君が面を許すも、小手2本で勝つ。続く佐藤君が面1本で逃げ切り、強豪相手に好発進をする。が、三鋒が2本負け、中堅、三将と分けが続き、次第に寄られる。ついに副将で1本負けを喫し、本数で1本差がつく。大将の野村君は逆転を狙うも、逃げ切られた。結局2対2、本数3対4の僅差で敗れた。その後専修大学は、奇しくも女子の筑波大学同様快進撃で優勝を飾る。女子と異なり紙一重ではあるが、負けは負け。新年度にはこの借りを十二分に返してもらいたい。

男子出場選手

男子出場選手

池田　潤(いけだじゅん)	法律学科2年	私立日本航空高校出身
伊藤 洋平(いとうようへい)	法律学科2年	宮城県小牛田農林高校出身
江口 裕治(えぐちゆうじ)	法律学科2年	佐賀県立白石高校出身
長澤 良平(ながさわりょうへい)	法律学科2年	福島県立安達高校出身
野村 祐生(のむらゆうき)	法律学科2年	和歌山県立和歌山工業高校出身
木本 嘉則(きもとよしのり)	経済学科2年	私立日章学園高校出身
佐藤 将人(さとうまさと)	経済学科2年	福島県立湯本高校出身
中村 剛士(なかむらつよし)	法律学科1年	私立明徳義塾高校出身
半澤 慎哉(はんざわしんや)	法律学科1年	私立聖光学院高校出身

女子出場選手

井上 早織(いのうえさおり)	法律学科2年	川崎市立橘高校出身
河村　静(かわむらしずか)	法律学科2年	私立東京成徳大学高校出身
山田 育実(やまだいくみ)	比較文化学科2年	私立修徳高校出身
横田 裕美(よこたひろみ)	比較文化学科2年	私立拓殖大学第一高校出身
岡田　愛(おかだ　あい)	法律学科1年	私立東日本国際大学附属昌平高校出身
佐藤かなこ(さとうかなこ)	法律学科1年	宮城県小牛田農林高校出身
山田 由佳(やまだ　ゆか)	現代文化学部1年	神奈川県立麻生総合高校出身

ラグビー部

入替戦を制す

4部昇格

関東大学リーグ戦5部に属するラグビー部が6勝1敗の2位でシーズンを終えた。この結果12月9日(日)の入替戦に進み、4部7位の駒澤大学と対戦。大差で勝利し、昇格を果たした。シーズン全般を深井光正主将(文化情報学科4年　新潟県立長岡向陵高校出身)に振り返ってもらった。

ラグビー部ではここ2年、5部4位と不本意な成績が続いていた。それを踏まえ、練習は前年より厳しく、基礎を徹底して行い、5部優勝、4部昇格を目標に公式戦に入った。

リーグ戦は9月23日(日)～11月25日(日)の間に7試合が行われる。不戦勝の後、事実上の開幕戦となる文教大学戦は雨中の試合だった。ボールが手につかず、拮抗した試合になったが、24対7で勝てた。その後上位校との対戦を経て、最終の千葉工業大学戦を全勝対決で迎えた。

しかし、シーズンを通して順調な訳ではなかった。前半は主将である私も怪我で練習できず、また主力選手が戦線離脱する時もあった。しかし、4年生が後輩に声をかけ、部を先導していき、下級生も意見を出し、互いに刺激し合って、チーム力が向上していった。

勝利の鍵はディフェンス

今シーズンの勝因はディフェンスが良かった点である。千葉工大戦を除き、全試合失トライは1つ(7点)以内で、逆に千葉工大戦の敗戦(17対35)はディフェンスが機能しなかった結果でもある。優勝はならなかったが、この敗戦で、ディフェンス、タックルをシンプルに遂行することが最重要であることに気付いた。

入替戦の相手、駒澤大学は春に練習試合で負けており、リベンジを果たすべく試合に臨んだ。この試合では個々が責任を果たし、シーズンベストのプレー、ゲームを目指した。結果は53対0で勝った。失点0が嬉しかった。優勝は逃したが、先輩方から引き継いだ「4部昇格」という夢を叶え、今期を締めくくることができた。

(文責―体育課)

入替戦　対駒澤大学

関東大学リーグ戦5部

駿河台大学　6勝1敗　勝点25　2位

本学	○	不戦勝	● 明海大
本学	○	24 - 7	● 文教大
本学	○	48 - 7	● 横浜商科大
本学	○	不戦勝	● 和光大
本学	○	50 - 0	● 東京経済大
本学	○	36 - 7	● 創価大
本学	●	17 - 35	○ 千葉工業大

入替戦　4部昇格

本学	○	53 - 0	● 駒澤大

アジア太平洋フロアボール選手権

ユニバーサルホッケー部が活躍

12月5日(月)～9日(金)、シンガポールで行われた2007アジア・太平洋フロアボール選手権大会(APAC)にユニバーサルホッケー部関係者が参加した。試合の模様を主将の増子晴信君(文化情報学科3年　私立尚志高校出身)に綴って貰った。

私は、吉野貴順(よしのたかのぶ)監督(法学部教授)指導の下、日本Bチームの一員としてAPACに参加した。Bチームは、OB2名と現役部員11名の構成だった。海外試合初の選手が多いなか、体が大きいオーストラリアAチームと初戦で当たった。我々は体の分をスピードで補い、8対7で勝利した。続くマレーシア戦も、序盤からのリードを守り、6対3で勝った。予選最終戦、シンガポールBチーム戦はシーソーゲームを終了直前に逆転し、6対5で予選Bグループを1位通過した。

準決勝は、予選で日本Aチームを破った韓国戦。Aチームのメンバーや観客の熱い応援もあり善戦したが、一歩及ばず1対2で敗れた。結果、3位決定戦でシンガポールBチームと再戦になった。

ここまで戦い抜いた証に、メダルを持ち帰ろうと戦い、10対4で勝利し、3位で大会を終えた。一方、3連覇を目指した日本Aチームは5位に終わった。なお、古山健太(ふるやまけんた)君(法律学科3年　私立尚志高校出身)が、20ポイントをあげ、ベスト6プレーヤーに選出された。

私は、今大会を通し、勝利の喜びと敗北の悔しさを実感した。代表経験のない部員と共に毎試合が正念場だった。技術がない分、気持ちとチームワークで戦ったが、力は十二分に出し切った。仲間と共に試練を乗り切ったことで、人間的にも成長した気がする。8月にはオーストラリアでAPAC、11月には世界学生フロアボール選手権大会が控えている。私は、これらを目標に、挑戦を続けたいと思っている。

(文責―体育課)

対韓国戦。ゴール前で得点をねらう古山君